

平成 30 年 7 月 18 日

平成 30 年度アーバンデザインスクール前期第 1 回実績報告書

1. 前期第 1 回概要

(1) 開催日時

平成 30 年 6 月 16 日 (土) 10 時 30 分から正午

参加人数：23 名

(2) テーマ

草津の歴史と自然 (カルチャー)

(3) 話題提供者

馬場将史 (草津市教育委員会文化財保護課)

(4) 話題の概要

- 第 1 回は「草津の歴史と自然 (カルチャー)」をテーマに草津市教育委員会文化財保護課の馬場氏に話題提供いただいた。
- 古代から現在までの草津市の自然条件や地形の変化、そして政治や経済状況の影響を受け、どのような歴史的建造物が建てられ、そして活動が行われたかについて説明いただいた。
- 古代の草津 製鉄遺跡などの生産遺跡群
古代の琵琶湖は東西日本を結ぶ交通の要衝であり、多くの文物が琵琶湖を介して流通した。草津は近江大津宮や紫香楽宮等が営まれた影響を受け、常盤地区等には寺院跡などの歴史的建造物が所在する。
今の野路や立命館大学のあたりは豊富な森林資源を利用し製鉄等を大規模に行っていたことが知られている。また、琵琶湖から瀬田川、宇治川、木津川を經由して多くの物資が平城京等の古代旧都に運ばれていたと考えられる。
- 中世から近世初頭の草津 芦浦観音寺
当時、琵琶湖の水運は重要性を増したことから、「近江を制するものは天下を制する」と言われた。草津には草津三湊 (くさつさんそう) と呼ばれる三つの港 (志那、山田、矢橋) があった。この時代に湖上交通を管理・掌握する”船奉行”を務めたのが芦浦観音寺で、芦浦観音寺九世詮舜は豊臣秀吉に重用され、比叡山延暦寺の再興にも尽力した。
- 近世の草津 草津宿、矢橋の渡し
江戸時代幕府により、街道や宿場が整備され、草津宿は、東海道と中山道が合流・

分岐する宿場町として発展した。その頃、琵琶湖を使わず、日本海側を廻り、直接船で大阪に入る西廻り航路が開発されたため、琵琶湖の南北の水運は衰退したが、宿場町として発展をとげた草津は大津や坂本を結ぶ航路がある志那、山田、矢橋を利用する人々で栄えた。

- 近代の草津 蒸気船などと港

明治となり、鉄道の時代になったが、琵琶湖の水運を利用できたため、大津と米原間の鉄道敷設が東海道線最後になった。鉄道や道路が未発達だった時代、琵琶湖には多くの蒸気船が走る生活航路となった。草津も琵琶湖岸は水路が張り巡らされ、昭和 40 年代までは蒸気船や田舟が交通の中心だったが、徐々に鉄道と自動車の時代となった。

- 「サンヤレ踊り」「芦浦観音寺」を日本遺産に草津市初認定

「琵琶湖とその水辺景観 - 祈りと暮らしの水遺産」として草津市の「芦浦観音寺」と「サンヤレ踊り」が草津市として初めて日本遺産の追加認定を受けた。

- 「草津市歴史文化基本構想」について

文化財をテーマで結びつけ、総合的に保存・活用するための基本方針を策定する。7月7日（豪雨のため、7月28日に延期）にUDCBKにて説明会を予定している。

(5) 主な質疑応答

- 草津市の水路が衰退した理由はなにか？

- 鉄道や自動車の普及による道路の整備が原因。水路はほとんど暗渠化か埋め立てられ、道路に変わった。琵琶湖総合開発の影響もあるだろう。

- 天井川の形成は人為だけではなく、地質的な変化も大きいのでは？

- ほかの要因を完全に否定することはできないが、草津川の高さは 13m と高いので、人為的な要因と考えられる。

- 文化財等を観光に利用する場合は、ユニバーサルデザインに配慮してほしい。

- 具体的に検討する際にはユニバーサルデザインについても考慮する。

- 文化財の利用は点から面というが、埋蔵文化財等は点自体の保存が進んでいないのでは？

- 埋蔵文化財については発掘調査を実施し、図面による記録や遺物の収集保存を行い、記録保存している。

- 発掘調査にはレーザー探査を実施しているのか。

- 実施していない。

- ◇ レーザー探査のデータがあれば、バーチャルリアリティなどにも活用できるので、ぜひ検討していただきたい。

- 芦浦観音寺は点としてではなく、周辺の文化的景観も大切なのではないかと。

(7) まとめ

ワークショップでは、重複を含め、66のキーワードが出された。事務局において8つの大分類とそれぞれの大分類に1～4つの小分類合計15に分けた。その結果を下表「表 未来に伝えたい草津の目印」に纏めた。

大分類では、「街道」(16)、「文化財」(13)、「水辺」(12)の順に多くの関連ワードがあげられた。「矢橋」(6)は「街道」、「水辺」双方に関連するワードであった(それぞれの大分類のあとの()内の数字は関連ワードの個数)。

表 未来に伝えたい草津の目印

キーワード分類				数		備考
大分類		小分類				
1	食べ物	1	うばがもち	2	2	
2	街道	1	街道	3	16	
		2	草津宿	8		
		3	野路宿	2		
		4	その他	3		古代東山道、志那街道
3		矢橋		6	6	街道と琵琶湖双方と関連が深い。
4	水辺	1	琵琶湖	5	12	
		2	水路	5		
		3	その他	2		穴村港、東海道・中山道と草津水路の関わり方
5	文化財	1	芦浦観音寺	3	13	芦浦観音寺とそれを取り巻く景観
		2	建造物	4		立木神社、老杉神社と三上山、歴史的な神社群、鎮守の森
		3	無形	6		サンヤレ踊り、地域の神社のお祭り、草津の隠れた文化財
6	古代遺跡	1	製鉄	3	3	野路のこなくそと云われる鑄造場
7	天井川			8	8	
8	その他	1	景観	1	6	青地城
		2	場所	2		萩の玉川、風車
		3	使い方	3		この情報の使い方
合計				66	66	

今回は「草津の歴史と自然(カルチャー)」をテーマに、草津の自然環境や地形の変化、草津を取り囲む政治状況などを重ねあわせながら、時代時代を象徴する草津の歴史的建造物を紹介したこと、また「琵琶湖とその水辺景観 - 水辺の祈りと暮らしの水遺産」の日本遺産の認定を受けた芦浦観音寺とサンヤレ踊りを紹介したこともあり、「文化財」関係のワードも多く出された。

さらにこのワードを関連性やおおよその地理的關係性も含めて、事務局において図にしたものを次頁(図 ワorkshop「未来に伝えたい草津の目印」)に示す。上が市東部で琵琶湖、下が市西部で山側、右が市北部(常盤)、左が市南部(野路)のイメージである。

課題としては、4番目に頻出度が高かった「天井川」を他のワードとどのように関係づけるかであるように思われる。

これらの挙げられたワードを参考に、今後 3 回の講義を踏まえ、第 5 回のワークショップにおいて「歩いて巡る地域の魅力の伝え方」について考えたい。

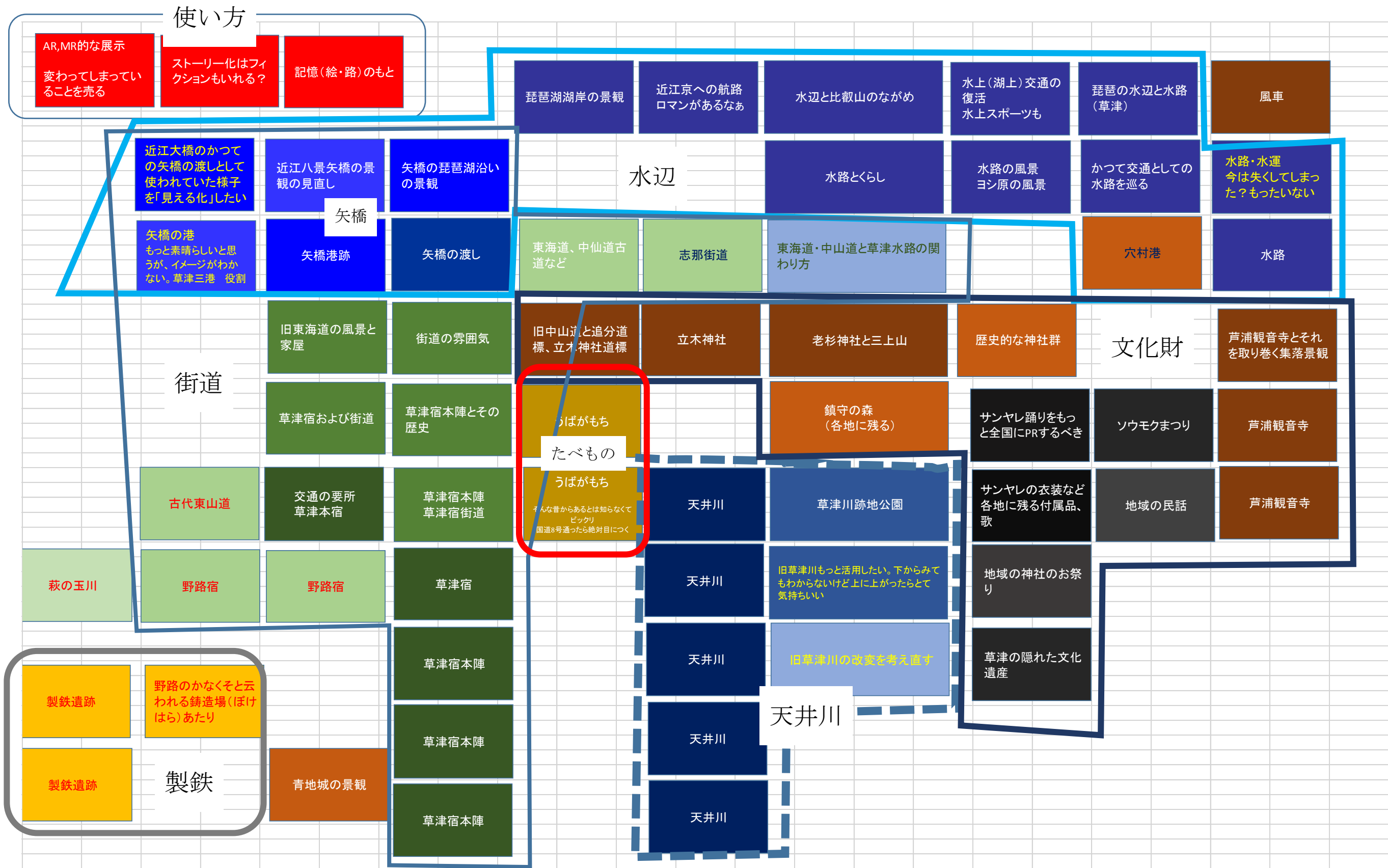
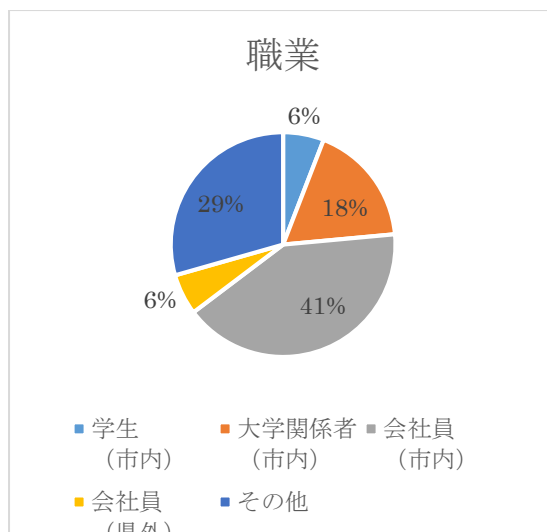
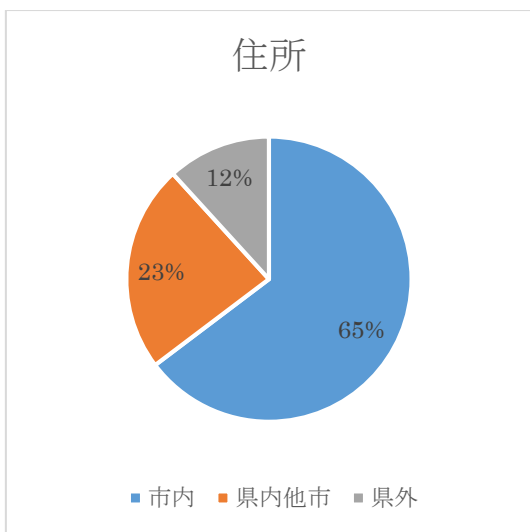
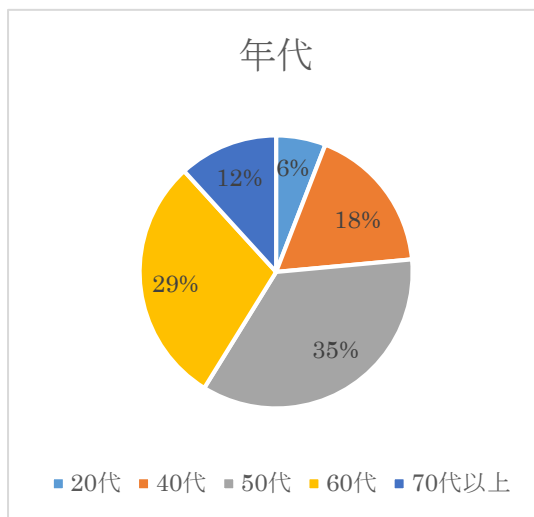
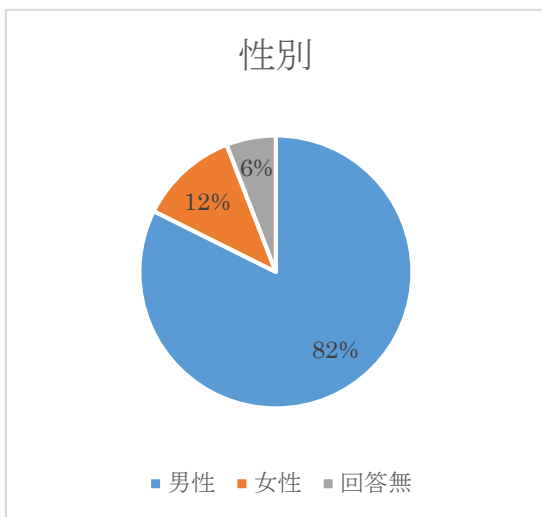


図 ワークショップ「未来に伝えたい草津の目印」

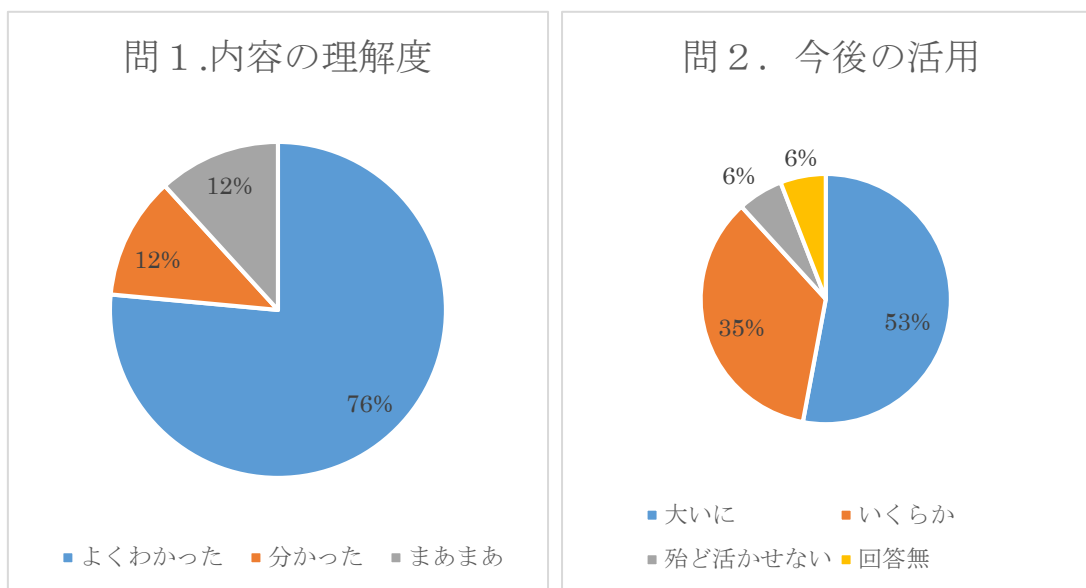
(7) アンケートまとめ

① 参加者属性

参加者 23 名のうち、アンケートに回答いただいた方は 17 名、回答率は 74 % でした。



② 内容について



③ 内容に関する自由記述

- 水路の話。
- 野路宿の話と、古代東山道の話、芦浦観音寺。
- 草津の歴史や発展について水運を絡めながら聞くことができ、とても印象に残った。
- 草津という地名の由来：群馬の草津との違い。
- 琵琶湖水路が衰退の理由があまり納得いかない。
 - ①圧倒的に距離と時間がかかると思うが？
 - ②琵琶湖水路の運搬量があまりにも少なかったですか？
差が数値でないのでギモン。
- サンヤレの意味は幸あれ？
- 縄文時代以降の遺跡についてもっと紹介して下さい。
- 草津の歴史、文化、保存のあり方に強い思いを持っている市民がこんなにいることに感激しました。
- 芦浦観音寺・・・水運と陸運
矢橋の渡し・・・瀬田の唐橋
日本遺産

以上